

第63回試験研究成果発表会～ナシの安定生産技術～

【日 時】 令和8年2月25日（水）午後2時15分～午後5時00分

【場 所】 農林総合研究センター新本館（千葉市緑区大金沢町180-1）

発表1 成果発表

温暖化でナシがピンチに！～発芽不良の発生状況と発生要因の解明～

果樹研究室 戸谷 智明

千葉県のナシ産地では、花芽や枝が枯死する発芽不良が、2020年以降すべての主要産地で確認されました。発芽不良が発生する原因是、温暖化による気温上昇で樹の耐凍性の獲得が不十分になり、冬季の低温により花芽や枝が障害を受けたためと推察されました。また、発芽不良の発生には年次変動があることや、「幸水」で発生程度が重いなど品種間差があることが明らかになりましたので紹介します。



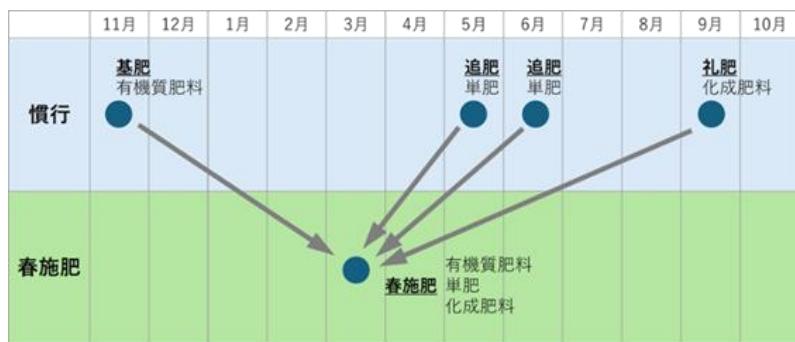
発芽不良が発生した枝（左）と正常な枝（右）

発表2 成果発表

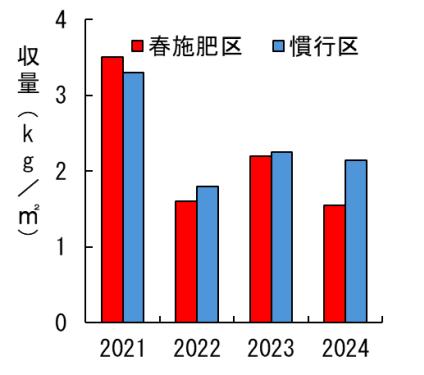
春施肥がナシの樹の生育、収量及び果実品質に与える影響

果樹研究室 瓢橋 駿介

近年の温暖化の影響により、ナシの花芽が枯死するなどの症状が現れる発芽不良が発生しています。発芽不良の対策として、基肥や堆肥の施用時期を秋冬期から春期に変更する「春施肥」が有効との知見がありますが、千葉県では春施肥はほとんど行われていません。そこで、施肥体系の春施肥への変更が果実の収量、品質及び樹の生育に及ぼす影響を明らかにしましたので紹介します。



慣行の施肥体系から春施肥への変更のイメージ



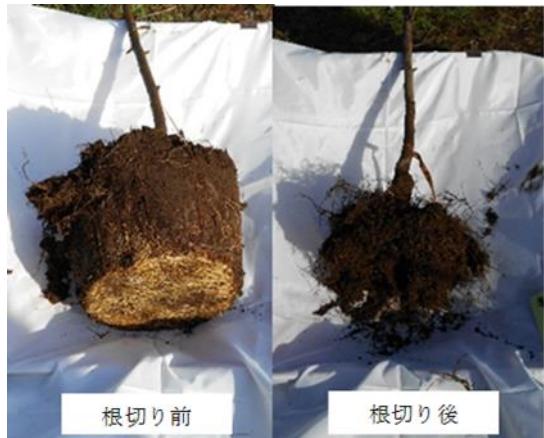
春施肥区と慣行区の収量の比較

発表3 成果発表

ナシの大苗利用における移植後の生育停滞を防ぐ管理技術

果樹研究室 龍橋 駿介

千葉県のナシ園は老木化が進行しており改植が喫緊の課題となっています。早期成園化にあたっては1～2年ポットで育苗する大苗の利用が有効と考えられますが、本圃に移植後の生育停滞（植え傷み）が問題となっています。そこで、大苗移植時の根切り処理の有無及び台木の差異等が生育に与える影響を明らかにしました。また、苗木を本圃に直接定植する場合と大苗移植する場合との樹の生育の差異についても検証しましたので併せて紹介します。



大苗定植時の根切りの様子



大苗利用による移植後の生育比較試験

発表4 成果発表

「秋満月」の中玉生産技術及び省力摘果技術

果樹研究室 押田 正義

ナシ「秋満月」は果重700gを超える大玉であることが特長の一つですが、大きすぎて販売しにくいといった意見も聞かれます。そこで、500g程度の中玉果実の生産に必要な摘果時の果径の基準を明らかにしました。また、「秋満月」は適度に生理落果する「自家摘果性」を有することが明らかになっていました。この自家摘果性を活かし、摘果を1回のみとする省力的な着果管理技術を検討したので、併せて紹介します。



自家摘果性により1果そう2~3果になった側枝



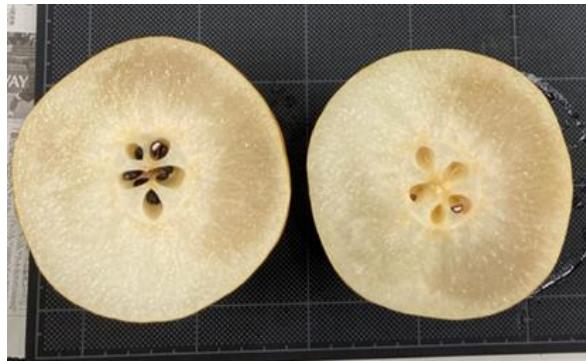
満開後80日に1回のみ摘果した樹

発表5 成果発表

「秋満月」のみつ症対策 —被袋によるみつ症軽減と非破壊判別技術—

果樹研究室 龍橋 駿介

千葉県オリジナル品種「秋満月」では、果肉が水浸状になるみつ症の発生が問題となっています。そこで、みつ症の軽減が期待できる果実袋の種類及び被袋処理期間について明らかにしました。また、「秋満月」のみつ症の判別は目視では難しいため、みつ症を非破壊で判別できる振動硬度計の開発に取り組みましたので、併せて紹介します。



「秋満月」のみつ症重症果の果実断面



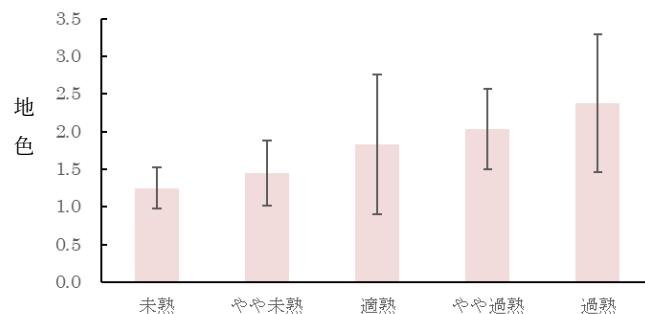
1点式振動硬度計によるみつ症判別の様子

発表6 成果発表

ニホンナシ「甘太」の収穫適期と袋掛けの効果

果樹研究室 鈴木 健

ニホンナシ「甘太」（育成元：農研機構）は高糖度で良食味ですが収穫適期の判断が難しく、熟度が進んだ果実は果肉がスポンジ状になり食味が低下します。そこで、「甘太」の成熟特性や振動硬度計を利用した収穫適期判別方法を明らかにしました。また、「甘太」は果実表面のさびの発生が多く外観があまり良くありません。他の品種では、袋かけを行うことで外観品質が向上することが知られています。そこで、「甘太」について、果実袋被覆を行うとどのような変化が起きるのかについて、併せて紹介します。



「甘太」の熟度と地色の関係



果実袋の違いによる「甘太」の果実外観